

# あにわにわ 通信

## 第10号

「あにわにわ」とは、ニュージーランドの  
マオリ語で虹を意味しています。

2010.7.20

特定非営利活動法人あい・ぽーとステーション発行

代表理事：大日向 雅美・新澤 誠治

子育てひろば「あい・ぽーと」

住所：107-0062 東京都港区南青山 2-25-1  
電話：03-5786-3250 FAX:03-5786-3256  
E-mail: [info@ai-port.jp](mailto:info@ai-port.jp)  
URL: <http://www.ai-port.jp>

全国版子育て・家族支援者養成講座事務局

住所：〒106-0031 東京都港区西麻布 2-24-25-509  
電話：03-6657-8539 FAX:03-3499-8539  
E-mail: [station@ai-port.jp](mailto:station@ai-port.jp)  
URL: <http://www.ai-port.jp>

本法人代表理事・  
恵泉女学園大学大学院教授  
大日向雅美

お暑い毎日ですが、皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか？いつもあい・ぽーとステーションの活動にお力添えをいただいておりますこと、心から感謝申し上げます。  
さて、昨今、子育てや子育て支援に関して、いくつかの大きな施策の動きが見られています。「子ども・子育て新システム」が制定され、育児介護休業法も改正されました。いずれも、子育てや家庭生活の大半を母親一人が担ってきた従来の在り方を根本から改め、社会全体で見守り、支え、あるいは男女が共に、仕事も子育てや介護等もゆとりをもつて関わられる社会を目指すべく、行政だけでなく、地域やさまざまな活動が連携した「新たな公共」の構築も大切な課題となっています。NPOに課せられる役割も、従来の枠を超えて、これからは一層大きなものとなっていくと思われまします。本法人も、心新たに、次ぎのステップを常に考え続けていきたいと思えます。今号は、そうした観点から、皆様に素晴らしいお原稿を頂戴できました。御礼を申し上げますと共に、今後とも、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

### 法人によせて

法人理事・弁護士法人キャスト糸賀 大前由子

御縁あつて、NPO法人あい・ぽーとステーションの理事を拝命してから、早や三年の月日が流れました。以前から、代表者のお一人である大日向雅美先生におかれて、新聞等で、子供の福祉を尊重されるお立場から様々な提言をされていたのを拝読しており、その鋭い切り口や本質を突いたご発言に大変感銘を受けておりました。私自身、弁護士として職務を遂行する一方、四人の子供の母親として色々と思ひ悩むこともありますが、子供、親、地域に働きかけて子育て支援を積極的に展開しているあい・ぽーとステーションの理事を務めさせていただく中で、自らの子育てを振り返る大変良い機会ともなっています。昨今の日本は、毎日のように親等の養育者による子供の虐待報道がなされ、少子化はもはや留まることを知らず、大変悔しいことに、子供の存在が尊重されない社会が形成されている気がいたします。けれども、「あい・ぽーと」では、大日向先生、新澤先生を始め、温かな穏やかな沢山の笑顔に出会うことができます。毎月送られてくるひだまり通信では、新しい催し物や講座が

企画され、その一つ一つが丁寧に作り上げられていることが紙面からも窺えます。さらに、子育て・家族支援者の養成という子育て支援の原点に立ち返った地道な活動も続けている法人の理事であることを誇りに思うとともに、これからのこの活動の灯が街へ地域へと、さらに広がっていくようにと願ひ、見守り続けたいと思っております。

法人理事・恵泉女学園学長 松下俱子

昭和四十年代のこと、ある大学教授が一年生に鶏の絵を描かせたところ毎年何人かの学生が四本足の鶏を描くので問題だと思つたと聞きました。また、幼稚園児が遠足のとき、麦の穂を見て「せんせー、ビニールぶくろちようだーい。このけむしうちにもつてくから。」と頼んだという話がありました。こうした実際に驚いた教育関係者が、次代を担う子どもたちの自然認識がこれでは大変だと思ひ、「子どもを自然に帰そうー」と国や地方行政に声を掛け「少年自然の家」という施設を設置しはじめたのです。現在、組織運営の仕組みは変容していますが「自然に親しみ恩恵に触れ、謙虚な心や畏敬の念を育てる」というねらいは変わらず、多くの青少年が自然の中で活動しています。本当はそのような施設がなくとも日々の生活の中で草や野の花などに触れながら心が育っていくのが望ましいのですが、現代社会では困難なのはお分かりだと思ひます。先日、あい・ぽーとステーションにお邪魔して、園庭に広がるジャガイモ畑を見てうれしくなりました。お子さんたちは都会の真ん中で、毎日成長する生き物を見る体験ができるのですから私は五歳女兒たちと一緒に団体活動をしていまして、彼女たちは公園に連れていくと自分たちで葉っぱにぎざぎざちゃん、「まるぼちゃん」などと名づけて遊び始めます。子どもは自然と仲良くなる天才です。園庭でのお子さんたちの自然体験を大切にしてください。



法人監事・税理士法人グロシア代表社員 松村正一

法人設立にあたり、私に監事就任の要請がありお引き受けしたのが、平成十六年四月でした。理事の皆さんはそれぞれ幼児教育の分野では専門家であり、私は当法人の目指す目的に賛同し、財務会計面のお手伝いを通してお役にたてればとの思いで監事をお引き受けした次第であります。

ご案内の如く当会の目的は、子育て支援と女性の社会参加支援を同時に達成することであり、NPO法人が特定非営利活動と定義づけられている「子どもの健全育成を図る活動」に他なりません。当会は、子育て支援・親育て支援という今、日本が抱えている少子化の問題に真正面に取り組んでいるところに意義があると思ひます。既に法人設立から満六年を経過し、「施設内での子育て家族への支援」は七年目を迎え、「子育て・家族支援者養成講座」は港区・浦安市・千代田区・高浜市等へ広がりを見せ、関連事業を含めて理事やスタッフの皆さんは大変忙しい日々を送っておられるものと思ひます。この間あい・ぽーとの社会的認知度も高まり、スタッフも増加しており、これからの法人としての維持・継続に理事者各位に重い責任が課されることとなっています。

NPO法人は法律施行の平成十年十二月以来約十一年を過ぎ、この間設立は約四十千を超えましたが、一方解散件数も約四千件に達してきております。NPO法人が補助金等を主な収入財源にしているのであれば、そこに剰余（利益）は発生せず、長期的視野に立った経営ができません。その寿命は短いものと思われまします。実際の資金難にあえぐ法人は多いようです。今後は経営という面でNPO法人を考へていく必要があるのではないのでしょうか。NPO法人だから利益を求めてはいけないことはありません。その利益で雇用の安定を図り、又、いかに社会貢献に使うかが求められるものと思ひます。利益を上げていかなければ法人の存続は不可能です。NPO法人あい・ぽーとステーションの益々の発展をお祈り申し上げます。

## 【総会報告】

二〇一〇年五月二十四日(月)に二〇一〇(平成二十二)年度第一回理事会と通常総会が行われました。

第一号議案 二〇〇九(平成二十一)年度事業報告、第二号議案 二〇〇九(平成二十一)年度決算報告、第三号議案 二〇一〇(平成二十二)年度事業計画(案)、第四号議案 二〇一〇(平成二十二)年度予算(案)、第五号議案 役員の変更事項の五議案全て満場一致で承認されましたことをご報告致します。相変わらず厳しい社会状況の中、当法人は順調に事業展開を致しております。今後とも地域に根づくNPOとして努力して参りますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 【バックアップ研修開講予定】

### ＜港区＞

八月十七日(火) 十四時三十分から十六時  
内容 キッズフェスタ(たかはしひでゆきさんのライブ・パパへの応援歌)  
会場 東京国際フォーラム ホールB5

九月二十九日(水)

十時から十一時三十分:三級認定者対象  
十三時から十四時三十分:二級認定者対象  
内容 活動報告&話し合い  
講師 大日向雅美(本法人代表理事・子育てひろば「あい・ぼーと」施設長)  
会場 子育てひろば「あい・ぼーと」二階

### ＜千代田区＞

七月二十七日(火) 十時から十二時  
内容 特別支援について  
講師 小西行郎(同志社大学大学院文学研究科 赤ちゃん学術センター教授)  
会場 西神田児童センター 小ホール

八月十七日(火) 十四時三十分から十六時  
内容 キッズフェスタ(たかはしひでゆきさんのライブ・パパへの応援歌)  
会場 東京国際フォーラム ホールB5

九月十一日(土) 九時三十分から十一時

内容 布絵本の製作  
講師 資生堂ビューティソリユーション 開発センターのボランティアアグリー  
会場 西神田児童館センター 小ホール

### ＜浦安市＞

八月二十日(金) 十時から十一時三十分  
内容 絵本の選び方  
講師 大宮 祐子  
会場 浦安市中央図書館 奉仕第3係長  
浦安市文化会館(予定)

九月十七日(金) 十時から十一時三十分

内容 手遊び等  
講師 中島 優子  
会場 浦安市文化会館(予定)  
(富岡保育園 主任保育士)

### ＜高浜市＞

九月二十一日(火) 十一時から十二時三十分  
講師 岡 健(大妻女子大学准教授)  
※会場・内容等詳細については、近日中に別途お知らせします。

## 【養成講座開講情報】

### ＜港区＞

子育て・家族支援者養成講座(三級)Ⅲ期  
開講日 二〇一〇年十月八日(金)  
毎週金曜日で七月二十三日まで  
講義と実習を含む三十分  
会場 子育てひろば「あい・ぼーと」  
[問合せ先]  
子育てひろば「あい・ぼーと」池田  
TEL 〇三(五七八六)三二五〇

### ＜千代田区＞

子育て・家族支援者養成講座(二級)Ⅲ期  
開講日 二〇一〇年十月四日(金)

十二月十日(金)まで  
※講師のスケジュールの関係で金曜日以外に、火・水もあり。  
講義と実習を含む三十分  
会場 西神田児童館小ホール  
もしくは千代田区役所

### ＜浦安市＞

子育て・家族支援者養成講座(二級)Ⅳ期  
開講日 二〇一〇年九月十七日(金)  
※原則として金曜日で十一月二十六日まで

## 子育て中のあなたへの贈り物

～ママもパパも子どもも笑顔いっぱい&癒しのひと時を～

協力:住友生命保険相互会社  
企画・運営:NPO 法人あい・ぼーとステーション&港区

ピアノと弦楽四重奏が奏でる音色や、バレリーナによるソロバレエを「創作音楽絵本」で楽しみ、親子バレエと体操で心と体をリフレッシュ。有機園芸講座で植えたハーブの苗はお土産としてお持ち帰りできます。午後弦楽四重奏とピアノによるコンサートや、ママとパパの心と体を癒すブースやステージ、ライブの他、パパへの応援歌コーナーなど盛り沢山です。司会は元NHK すくすく子育ての天野ひかりさんです。

東京国際フォーラム ホールB5

2010年8月17日(火) 10:00~16:30

対象:未就学児の親子(一時保育あり)  
定員:各回 100名(※事前申し込み優先・当日参加も可)  
※「午前」「午後」「一日」の中から選んでお申込みいただけます。

午前の部 10:00~12:15 「ママもパパも子どもも笑顔いっぱい」  
ピアノと弦楽四重奏、創作音楽絵本、生演奏による親子バレエ、親子体操、有機園芸講座  
午後の部 13:00~16:30 「癒しのひとときを」  
ピアノと弦楽四重奏のミニコンサート&ソロバレエ、親子ヨガの他、アロママッサージ、ハーブと薬膳料理の紹介等の癒しのブース、「天装戦隊ゴセイジャー」の高橋秀幸ライブ、子育てについてみんなで語るパパへの応援歌コーナー(山田正人氏、高橋秀幸氏、汐見先生、大日向先生出演)フィナーレは生演奏による親子バレエ!!

(パパへの応援歌コーナーはバックアップ対象となります)

※会場は出入り自由、休憩時間もアロママッサージや親子向けのモノづくり体験コーナーを行っています。ご自由にお楽しみ下さい!  
子育てひろば「あい・ぼーと」103-5786-3250(10:00~17:00)

講義と実習を含む三十分  
会場 浦安市文化会館

[問合せ先]  
あい・ぼーとステーション  
子育て・家族支援者養成講座事務局  
TEL 〇三(六六五七) 八五三九

千代田区担当 榎本・佐瀬・蒲生  
浦安市担当 榎本・古閑

★申し込み方法など詳細については、各自自治体の広報ホームページ、及び当法人のホームページに掲載しております。お知り合いの方などがいらつしやいましたら、ぜひご紹介下さい。

## 新たな提案

「学童・病後児保育室開設に向けて」

港区子育て・家族支援者 永谷芳子

私は派遣型支援活動を通して地域から必要とされることを嬉しく思い、今ではライフワークとなり、この五年間尽くして参りました。新生児の宿泊保育及び沐浴、病児の入院付き添い宿泊保育、幼稚園送迎、お稽古時の付き添い、親の残業時の保育、お子さんの成長や育児の悩み相談、週に三回の読み聞かせ等、様々な支援をして参りました。

私たち二級の支援者はどのような要件にも対応できるようにと、認定を頂きました。今後さらなるステップとしてどのような支援が可能かと考えるために、利用者さんがどんな支援を必要とされているか知りたくて、私が関わっている方へリサーチしましたところ、学童保育の「小一の壁」について、多くの意見をいただきました。「保育園に通っているときは安心して仕事ができましたが小学生になったとたん学童保育は六時迄、その後、自宅で子供が一人で過しているのが心配」、「不安から退職を考えてしまっ」という意見でした。小学校低学年の内はひとりで夕飯をとり宿題をして、挙げ句の果ては寝てしまっとは本当に心配だと思えます。

そこで私たち二級の支援者は小学生まで保育できるという活動内容と送迎もできる条件をフルに活用して、可能な支援を考えました。例えば、あいぽーとの施設で「学童保育アフター六時の保育」と称して夕飯付き・外注の給食(保育所の設置基準の一部緩和により、六月から保育所の給食の外部搬入が認められるようになった)で行う。一日数名の学童児を予約制で特に低学年の保育に充てる、という提案です。児童が歩いて通えない距離であれば、私達はお迎えにも行けるのです。様々な活動が可能な二級支援者ならではの支援ではないでしょうか。あいぽーとの支援者であれば、親御さんも安心して残業できるでしょうし、お子さんも淋しいことなくお迎えを待つことができるようではないでしょうか。

二つめの提案は、保育園では預かってもらえない病後児の為に「二保育室」を考えます。回復に向っている病児を、医師署名の病後児保育利用連絡票に従い、保育園に復帰出来る迄の間、病後児保育室で安静に保育させて頂くという提案です。

このような形が実現すれば、私たち支援者もさらにステップアップし、活動範囲も広がり、地域から期待されることだと思います。二つして私達が活動を続けられるのも、大日向施設長に守られているお蔭と感謝しております。

## 新たな気持ち

「児童育成クラブの指導員として」

浦安市子育て・家族支援者 下間 真里子

平成十八年十月に浦安市主催の子育て家庭支援講座(三級)を受講し、十九年十月に同じく二級講座を受講し、その後バックアップ講座を受講しながら、児童育成クラブ指導員として在籍している自分です。

十年ほど前から児童育成クラブ指導員として在籍していましたが、子供への対応がわからない事が多かったので、この講座に参加し、何かヒントが見つければと思い受講しました。この年は、浦安市の児童育成クラブ施設長が現況を演壇に立つて話す機会があり、受講生にも現状をわかっってもらえ一緒に考えて頂ける状況でした。受講を終えてのバックアップ研修も設定して頂き、悩み等、話すことができ助かりました。

児童育成クラブは、小学校一年生から四年生までなので、子育て支援講座での対象年齢だと、ちょっと低いです。この低い年齢にしっかりとつけてない子供たちが、児童育成クラブに在籍すると、とても扱いが難しくなります。一年生が新しく入ってくる、上級生の子供たちの全ての行動を真似します。ですから、新入生が入る前に上級生に色々な規律を学んでいって欲しいと思っています。

私が今、勉強したいのは、就学時前の子どもたちが小学校に入ってから規律を守るようにするにはどうしたらいいのかということ。また、児童育成クラブにおいて児童との間で日頃、切磋琢磨していることに良いアドバイスを頂ければ嬉しい。また、現在講座の中に浦安市の指導員ではない文京区の児童クラブの所長さんを講師としている講座に私たちも受講できることが可能になると嬉しい。

児童育成クラブも父母会主流の運営委員会方式から委託会社が運営する委託方式に移行しつつある現状ですが、子供たちに接する指導員は、変わりなく子どもたちのことを思う私たちなので、ぜひ、健常児は、もちろんのこと、障がい児に対する接し方を、もっともっと勉強し、五、六年生の身体が大きくなった子どもにも楽しい居場所になってもうえるように頑張りたいと思っています。



「出産前からの支援の充実、派遣型利用者さん同士のネットワーク作り」

港区子育て・家族支援者 斎藤洋未

二〇〇五年四月、心もとない歩みでスタートした私の活動も、多くの方の支えを得て二つまで続けてくることができました。今回は、日頃の派遣型活動を通して感じたことを基に、二つの提案をさせていただきます。一つは「出産前からの支援」、もう一つは「派遣型利用者さん同士のネットワーク作り」です。

「出産前からの支援」は、今でも、出産前の事前打ち合わせという形で実質的に行なっています。初産の方の育児用品の相談にのったり、自宅の間取りに合わせた沐浴方法を提案したり、退院後直ちに行うサポートをお約束したりしていますが、それによって安心して出産を迎えていただいています。しかし、他方で、「支援者と出産前に出会っていたら、もっと心丈夫で助かったの」という声もよく聞かれます。育児支援の前段階として、もっと積極的に妊娠中の方へ寄り添う姿勢を掲げることは、現在の事業目的では不可能でしょうか。出産前から支援者と良い関係を築いていただければ、出産後の育児に対する様々な不安も軽減され、サポートもより円滑に行くのではないかと思います。

また、地域で多くの利用者さんとお付き合いのある支援者が、「派遣型利用者さん同士のネットワーク作り」のお手伝はできないでしょうか。比較的自然に仲間作りや生の情報交換が可能なひろば会員に比べ、派遣型利用者さんの中には、仲間作りや心を開くことが苦手な方、ひろばに向くことが不可能な方、またさまざまな理由から孤立している方がいらっしやいます。親しくなった支援者が、このような利用者さんに安心して悩みや不安を語り合う場を提供することができたら、仲間作りや、新たな発見のきっかけをつかんでいただけることになり、より前向きな生活を過すお手伝いになるのではないのでしょうか。

最後に、私達支援者も良いサポートをするためには、語り合い、支え合い、協力し、高め合うことが大切だと思います。今後も機会を持つて、親しくお話しさせていただければ嬉しい。

## あい・ぽーとの次なるステップに向けて



「多感な子どもたちに寄り添って」

千代田区子育て・家族支援者 大田志津子

支援の楽しさは、常に可能性を感じていられること、だと思っています。エネルギーあふれる子どもたちに寄り添うことは、いつでも私たちに大きな力を与えてくれます。寄り添いながら自分自身が育てられていくと実感することも多く、未知数の魅力に触発され、私の中にもふつと可能性が湧いてくるのです。

私は今、公立の小学校で、学習生活支援員をしています。学校の朝は、おはようございますと元気な声から始まります。こんなに大きな声で、こんなに沢山の人と交わす挨拶のなんと清々しいこと。今日も一日、頑張るぞ！と幸せを感じる一時でもあります。子どもたちは、どんなことにも好奇心を抱き、やってみよう！と意欲満々。そんな子どもたちに刺激されて、昨年、ベランダ菜園を試みました。夏休み明けのある日、空っぽになったプランターを見て思い立ち、計画を立ててみました。

担任の先生が賛同して下さい、九月の末に種をまき、みんなで世話をし、十二月に収穫。元気がいいな子どもたちが育てた野菜は、予想以上にぐんぐんと育ち、りっぱな野菜になりました。四年生でしたので、まだ家庭科の経験がなく、初めての調理実習にも挑戦。みんな何をやるか話し合い、小松菜のこまあえと大根と蕪の煮もの、そしてみそ汁と、収穫したての野菜で作った料理の美味しさに感動しました。

また、今年度から学習障害のある児童の個別学習を行っています。障害のあるお子さんとの一対一の学習は、接し方、学習内容すべてが試行錯誤の日々ですが、学校が好きになり、生活の中で笑顔が増え、意欲的になっていく姿は何にも代え難い宝物です。

支援活動の中で、役に立っているのだろうか…と不安になることもあります。そんな時こそ、新たなステップに向けて、可能性を育むチャンスだと思います。多感な子ども達に寄り添いながら、私にできる唯一つことは、どんな時でも笑顔で声をかけ続けること、と強く思うて支援活動を続けています。



「ほ・ほ」の誕生日「これかひ」

浦安市子育て・家族支援者 今井真千子

「きちんと勉強された方々が子どもを見て下さっている間、大人が話を出来る機会は大変貴重でありがたいです。こういう場合は他にはないので、とてもゆくり出来ました。」これは(おやこの広場、ほ・ほ)主催「子育てトーク」終了後、参加者から頂いた御意見です。嬉しかったです。(ほ・ほ)メンバー一同、やつて良かった、と思いました。

さて、「ほ・ほ」について何だろっつですよね。ではここで成り立ちと「子育てトーク」を開催するまでのお話をしましょう。

浦安市子育て・家族支援者養成講座が終了した時、自然とこんな話をしていました。「せっかく養成講座を受けたのだから何かしたいね。この講座を活かしたいね。何か還元できる事はないかしら!」何かのお役に立ちたいという気持ちは溢れる程ありました。何をどうするとうい具体案は全くありません。そこでいくつもの施設見学やミーティングを重ねて、二つの方針を明らかにしました。

一つ、(ほ・ほ)リードで何かをやつてあげるのではなく、母達の必要としている支援にフォーカスし、それをサポートする事。もう一つは、私達メンバーも成長する学びの場である事。この二つを中心に一同自発的に楽しく活動する事を確認しました。(ほ・ほ)というグループ名も付けました。

そして企画したのが「子育てトーク」子育てのこと、(私)のこと、日頃の思いを話しませんか?です。企画の前にお母さん達の「本音を聞く会」も開き、ぶちやけトークを聴きました。そこで表面的なおつき合いでなく深く信頼し合え、安心して子ども達を預け合いたい、と聞きました。そんな仲間作りのお手伝いに役に立ちたいと母達が話をする間の子どもの保育はメンバーが見る、との企画ができました。

暫くはこの路線で行く予定です。でも将来的には、子育て中であつても「私」という個人を活かせる場の提供もしたいと考えています。例えば自分の得意や資格を活かして一日講師をやる等、楽しめる事も考えているところです。

「植物の力を伝える発信スポット」あい・ぽーと」

港区子育て・家族支援者 佐藤朋香

大日向施設長が取り組まれていらっしやる子育て支援と、あい・ぽーとの記事に感銘を受け、四年前降り立ったのは流行の最先端をいく青山、外苑。門をくぐると、一転。そこには緑美しく、穏やかで温かい場所がありました。笑顔で迎えてくださったスタッフの皆さん。木のぬくもり、子ども達の笑い声。そして、包み込むような温かい微笑みの中に、強い信念を感ぜられる大日向先生。その全てが相まって、「あい・ぽーと」なのだ、そう思った感動は今も少しも変わりません。以来、事務のお仕事をしながら、子育て支援者三級・二級と受講し、子育て支援の現場にも行かせていただけるようになりまし。毎日が発見、学び、そしていつも支えあい、励ましあい、労わり合う仲間恵まれていることを有り難く思っています。

日々出会う子ども達は、地域の、国の、そして地球の宝物だ、と改めて気づかせてくれ、みんなで大切に、育むお手伝いをさせていただけの幸せを感じています。そして子ども達には何より健康な心と体でいて欲しい。私自身、ふたこの子どもたちを育ててきました。二人が学校を休むことなく健やかに成長してくれているのは、支えて下さる方々のおかげであると同時に、食の力だったのでないかと思っています。新鮮な心を込めて作られたお米や野菜は、その栄養素だけではなく、作られた方の願いや思いもいただくことになるのかもしれない。

以来、植物の持つ力に興味を持つようになり勉強を重ねてきましたが、植物の素晴らしさを子どもたちにも伝えたいと考えるようになりました。今回、その願いが叶い「親子で楽しむメデイカルハーブ」の講座を開催させて頂いたことになりました。あい・ぽーとは、土にこだわった有機栽培の菜園があります。そしてこの春、オーガニックハーブガーデンも作られました。ハーブは野草でもあることから、とても生命力が強く、自分の力で生き抜く力をいっばい持っています。小さな頃から本物に触れる大切さの一つとして、子ども達が植物ともっと仲良くなれるお手伝いが出来たらいいなと思っています。

穏やかで、ぬくもり溢れる地域に根ざした子育て広場あい・ぽーと。そこで取れた野菜やハーブを地域の方々に提供できるマルシェ(朝市)を開けたら素晴らしいと思います。子ども達の笑い声や元気に走り回るエネルギーを吸い込んだ野菜たちは、きつと地域の皆さまに喜ばれることでしょう。子どもも大人も植物の力を借りて心と体がもっと元気でいられる暮らしの提案。「しょく(食・植)」というテーマを地域の方々と共有できる、最先端なスポット「あい・ぽーと」。「あい・ぽーと」は私に夢と希望を与え続けてくれます。



「二期一会」

千代田区子育て・家族支援者 内藤 圭子

今、千代田区に転入されるご家族が増えました。千代田区では共生と共に生きる「子どもと親の育ち」を地域全体であたたく支えるまちの実現を目指して、子育て施策に力を入れています。四月には「富士見みらい館」がオープンし、五階の「富士見わんぱく親子ひろば」は、他の児童館と同じように親子でランチタイム、おやつタイムがあります。でも、知らない、利用したことがない、孤立して下さると聞きます。テラスもあり、外の風を感じながらのびのび過ごせます。では、「子育て支援の情報」は、どのように入手されているのでしょうか。活動をさせて戴きながらお聞きしています。情報満載の「広報ちよだ」を「覧下さい。インターネットで見られます。ビデオ広報」わがまち千代田も、地域の掲示板版をぜひ「覧下さい。地域の児童館では「幼児クラブ」、千代田図書館、四番町図書館では「おはなし会」、社会福祉協議会では「子育てサロン」、九段生涯学習館では「家庭教育学級」、千代田区男女共同参画センター「M」平成二十二年企画「講座開設」というように、親、子での催しが開かれています。

情報の発信がそれぞれ違うので探しにくいかも知れませんが、やはりここでも、知らないという方がいらっしやいます。では、どのように情報をお伝え出来るでしょうか。自分での情報収集を、そして、活動をさせて戴きながら発信させて戴きたいと思っています。少々「おせうかいおばさん」かも知れませんが、お声をかけさせて下さい。皆さんと一緒が苦手な方もいらっしやいます。「児童家庭支援センター」をご利用下さい。スタッフの方たちは、いつでもお待ちしています。ちょっと肩の力を抜いてみませんか。大きく深呼吸をされて、スタッフの方たちとお話してみませんか。日々、子育てでしながら思っていること、感じていることを、「二期一会」ではあります。が、その時々を大切に、少しでもお役にたてたら嬉しく思います。今後とどうぞ宜しくお願い致します。